**わがまち企業訪問**

**vol.3 光電子株式会社**

社名　光電子株式会社

所在地　岩出山上野目字中川原14-7

代表者　代表取締役社長 佐々木 秀

設立　平成元年

　コイルやトランスを利用した電子部品の設計・製造を手掛ける「光電子株式会社」は、平成元年の設立以来、生活がより豊かで便利になるモノづくりを追い求めてきました。中でも、光電子が製造・開発を進めるコイルと磁場空間を使った技術は、普段は目に見えないところで広く使われています。

　巧みな技術を利用した製品のなかに、コードレス電話機や電動式歯ブラシで使用されているワイヤレス給電装置（WP）があります。この装置は、コンセントやコネクタと接触せずに給電することができ、電源ケーブルの廃止・共通化、防水・防塵機能など、あらゆる電子機器の給電方法に変化をもたらすと注目されている技術です。

　世界に通用する技術を開発・発展させながら、その取り組みによって、地域に雇用を生むなどの好循環を育み、地域貢献に繋げたい、という光電子の企業理念。

　10年後、20年後も、岩出山地域に根づき、日本が誇る企業を目指そうと、いま、受注品の製造にとどまらず、自社製品による「自律経営」に向けた挑戦が始まっています。

　「WP開発プロジェクトチーム」は、その挑戦を代表するプロジェクトチームとして組織され、長年培った技術を結集させた新技術の開発が行われています。

　入社8年目の渋谷潤さんと、入社４年目の古屋善紀さんは、同プロジェクトで開発設計を担当しています。

　渋谷さんは、まだ世の中に存在しない製品を開発することは、既製品の製造とは違った楽しみがあるといいます。また、「生活に役立つ、より便利になる製品を作りたい、と目標を持って働けることが、やりがいにつながっている。自分の作った製品や装置が、多分野で活用できればうれしい。」と話してくれました。

　古屋さんは、「開発設計する際は、自分の理想形を持ち、それに近づけるためにどういった努力や工夫が必要か。その考察を繰り返すことで、一歩一歩、製品化への手応えを感じている。実験で失敗や問題が生じたときでも、想定外のリスクや、分からなかった現象を見いだしたことに魅力を感じる。」といいます。

　目に見えないところで社会を支えている技術は、「生活を便利にしたい」という技術者・開発者の思いがモノづくりへと結び付けてきました。技術深化への努力を惜しまない企業と技術者の思いは、世の中を築きあげる基盤として今後も前進していきます。

（写真）古屋 善紀さん

（写真）渋谷 潤さん

（写真）WP開発プロジェクトの製品開発をすすめる渋谷さんと古屋さん

**大崎市が進める地方創生⑤**

**市の象徴として普及しよう！**

**市の花・木・鳥、市民歌普及事業**

　昨年11月、市の花・木・鳥、市民歌は、大崎市誕生10周年を記念して制定されました。市では、市民の皆さんが「ひまわり・桜・マガン・市民歌」を自分たちのものとして愛着を持つことができ、市の象徴として市内外に広く発信し、「宝の都（くに）・大崎」をより盛り上げる取り組みを推進しています。

　本年度から、市民や住民団体、企業などが市の花・木・鳥、市民歌の普及を目的に実施するイベントなどに対し「市の花・木・鳥等普及事業補助金」を交付しています。

　６月25日に行われた「恋するひまわり ハンドメイドフェスタ vol.9」では、ハンドメイド作品の展示・販売を支援している市民サークル「ふくろうの家」が、これから見ごろの時期を迎える市の花・ひまわりをもっと広めたいと普及事業補助金を活用して、イベントを盛り上げました。市内外から50組の出店者がイベントに参加し、ひまわりの形のとんぼ玉を使ったアクセサリー作り体験や、ひまわりが描かれたビニール袋の配布のほか、全店でさまざまな作品が展示・販売されました。

　イベントを主催した、ふくろうの家 代表の堀智恵子さんは、「イベント全体のテーマとしてひまわりを扱い、来場客２０００人に市の花を発信することができました。ひまわりを見ると、大崎市を思い出す。これからそんな人が増えればいいなと思います。」と話してくれました。

　また、市では、「市の花・木・鳥等普及事業に関するパートナーシップ会議」を設置し、「ひまわり・桜・マガン・市民歌」を利用した新たな事業や環境づくりを検討しています。メンバーは、各まちづくり協議会の推薦者と、公募による市民、市職員の計19人（７月10日現在）で構成されています。

　７月10日、１回目のパートナーシップ会議が開催され、今後の事業展開について話し合いが行われました。メンバーからは「現在は、ひまわりは三本木地域、マガンは田尻地域など、地域限定のイメージがあるが、市全体で一体感のある取り組みをしたい。幅広い世代の人が親しめ、普段から目にしたり、耳にする方法はないか。」などの意見が出されました。今後は、月1回のペースで話し合いの場がもたれ、年内には具体的な事業展開を決定する予定です。

　市では、今後も補助金の交付やパートナーシップ会議を通じて市の花・木・鳥、市民歌を普及し、大崎市を盛り上げていきます。

※市の花・木・鳥等普及事業　補助金については、政策課　（２１２９）にお問い合　わせください。

（写真）ふくろうの家メンバー（前列）と活動を支援する田尻地区公民館職員（後列）